

リサイタルを行うソプラノ歌手

なかじま あきこ  
中嶋 彰子

# “ヴィーンの女王”の秘曲



“音楽の都”で屈指の歌劇場、ヴィーン・フォルクスオーパーの専属歌手に選ばれて、はや六年目。群を抜く表現力と舞台度胸に評価は高まり、地元の聴衆から同歌劇場の“女王”という称号を授かれた。「ヴィーン子は音楽好きで、音楽家への接し方が温かいですね」。すっかり現地に溶け込んだ様子だ。

そんな本場でも実力を認められたソプラノが九日、東京・千駄ヶ谷の津田ホールで、日本で初めて本格的なリサイタルに臨む。「最初のCD発売記念を兼ねます。共演したかった仲間とも一緒に、うれしい」と、笑みがこぼれる。

△オペラに乾杯▽と題した

△を歌う。目玉は十九世紀の作曲家カタラーニによる秘曲

△の数々。「数年かけて、自分の足で探し出した」逸品だ。

師匠の勧めで「CDを出すならほかの誰にも作れないものを作り」と意気込み、ミラノの図書館やパリの古本店を行脚。「イタリアの田舎町にある出版社で、昔の楽譜を手に入れよう」など努力を重ねた。

その末に再発見した作品群は、「不思議なハーモニーを持ち、表現力にあふれる。一つ一つが絵のようなんです」と、目下のお気に入りだ。コンサート後半は、おなじみのオペラ・アリアを並べる。十歳まで北海道・釧路で育ち、オーストラリアで声楽を始めた国際派。日本でも新国立劇場のオペラなどで急速に人気が上がった。「私の度胸は大自然で育った遺産ゆえかもしれない。ヴィーンでも責任ある立場になってきたので、いい仕事を続けたい」。

△03・5771・8114。